

スポーツ実技(河川救助)		実習	准教授 古川 慎太郎
科目カテゴリー	救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	13220202

1. 授業のねらい・概要

水難事故の危険性を正しく理解し、特に、河川（流水域・氾濫域）における初歩的な安全管理知識・技術、救助知識・技術の修得をはかる。

2. 授業の進め方

基礎知識を修得するための座学，河川域における救助実技を中心とした授業展開を行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方）	8. 実技①（PPEの着脱・ゾーニング）
2. 河川救助概論（基本的な考え方）	9. 実技②（フェリーアングルと泳法）
3. 流体力学	10. 実技③（スローバッグ）
4. 安全管理の基本	11. 実技④（浅瀬横断）
5. 流水救助の基本	12. 実技⑤（テンションダイアゴナルライン）
6. グループ討議（事例検討：河川増水）	13. 実技⑥（想定訓練）
7. グループ討議（事例検討：河川氾濫）	14. グループワーク（河川救助をめぐる課題の検討）
	15. 総括

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習，授業内容の振り返り，資料整理，自主練習等を行う必要があり，各授業につき30分～90分程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により，個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 水難救助活動における安全管理の重要性について理解を深める。
- 2) 河川救助活動を行う上で必要となる基礎知識・技術を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（80％）および第13回の授業で実施する想定訓練における活動状況（20％）により評価する。

なお，平常点は，授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

安全管理の徹底を要する実技項目があるため，教員の指示に従って統率の取れた行動をとれる学生のみが受講すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的救助機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。